

2009年8月6日

報道関係各位

中部学院大学
各務原シティカレッジ

各務原シティカレッジ本科生 長谷川智也

全国最年少で日商簿記1級に合格

中部学院大学各務原シティカレッジ「会計プロフェッショナルコース」の長谷川智也さん＝岐阜市＝が、6月に行われた第122回日商簿記検定試験1級において、15歳で合格するという快挙を成し遂げましたので、お知らせ致します。

日本商工会議所が発表した受験者データによると、今回の受験者数は18,253人（実受験者数14,399人）で、合格者数は1,464人、合格率は10.2%でした。

記

【第122回 日商簿記検定試験1級】2009年6月14日（日）実施

【プロフィール】

長谷川 智也（はせがわ・ともや）

1994年2月7日生まれ、岐阜市出身。

2008.9 中学3年の時、簿記の勉強を始める

11 日商簿記検定試験3級 合格

2009.1 中部学院大学各務原シティカレッジ聴講生

2 日商簿記検定試験2級 合格

3 岐阜市内の中学校を卒業

4 中部学院大学各務原シティカレッジ本科生

6 日商簿記検定試験1級 東海地区最年少で合格

12 公認会計士短答式に挑戦（予定）



（本件に関するお問い合わせ先）

中部学院大学 事務局（担当：田口 事務局次長） TEL:0575-24-2211（関キャンパス内）

長谷川さん「理解していくことが楽しい」

「素直になり自分に強くなった」森教授

「分からないことを積み残さず、しっかり克服してきたことが、良い結果につながったと思います」。中学卒業後、わずか4カ月で、日商簿記1級に見事合格した長谷川智也さん。日ごろの勤勉さと目標に向かうひたむきさが快挙をもたらしました。

簿記に出合ったのは昨年9月。かつて会計事務所に勤めていた父親の勧めでした。周囲は高校合格に向けて受験勉強一直線の中、長谷川さんは「18歳で公認会計士になる」という目標を立てました。大きな決め手は、本人、父親ともに尊敬する本学経営学部の森均教授の指導方針でした。「人間教育」を教育理念として、一人ひとりの持つ個性を伸ばし、本人の持ち味や能力を最大限に引き出すのが“森均流”。県立高校教諭として、数多くの公認会計士や税理士を輩出し、本学教授に転身後は、全国大学対抗簿記大会1級の部で二連覇に導きました。長谷川さんは、昨秋の簿記3級合格後、森教授の門をたたくことにしました。「興味の持てるものが見つからなかった時に簿記を知り、一つひとつを理解していくことに楽しさを感じました。もっと勉強して専門知識を深めたいと思うようになりました」と振り返ります。目標が明確だったため、高校進学は考えず、公認会計士の勉強に専念できる各務原シティカレッジの道を選びました。

今年1月。長谷川さんは会計プロフェッショナルコースの聴講生として、学校の授業がない週末に足を運びました。最初のころは「みんな集中しているので、張り詰めた緊迫感があって緊張しました」（長谷川さん）が、目的意識が高く、同じ目標を持った仲間と徐々に打ち解けました。1日8時間の勉強も苦に感じていないと言います。指導にあたる森教授は「こわばっていた表情も緩んで、さわやかな笑顔が見られるようになった」と言います。2月の日商簿記2級も順調に合格を果たしました。

この春、中学校を卒業すると、晴れて各務原シティカレッジ本科生となりました。勉強時間は1日10時間に増えました。高校の単位取得を目指し、通信制高等学校で学びながら、専門学習をこなします。起床は毎朝5時半。夜8時過ぎまで参考書と向き合います。毎朝、シティカレッジのある各務原キャンパスに着くと、会計プロコースの教育理念の三条訓の唱和で幕を開けます。「少年老い易く学なり難し 一寸の光陰 軽んずべからず」「わたし達は信頼される税理士・公認会計士になります」「わたし達は簿記で日本一になります」。その言葉の意味を深く感じるようになってきたという長谷川さん。「今できることを一つひとつ積み重ねていきたい」と言葉に力が入ります。森教授は「一番大切なことは素直になること。結果として自分（の意志）に強くなってきた証拠」と熱い眼差しを注いでいます。

次なる目標は、公認会計士短答式の合格。長谷川さんは「今はまだ通過点。ようやくスタートラインに立つことができました。これからが本当の勝負」と気を引き締めています。厳しい勉強の合間の息抜きは、家に帰ってからのテレビ鑑賞とジョギングです。